



平松 昭徳
市民クラブ



代表質問

一層の支出適正化にどう取り組んだか

全事業の精査、優先順位を検討し、ゼロベースの見直しを行う

令和4年度施政方針について

問 予算編成時において、一層の支出適正化と長期的な財源確保策の構築にどのように取り組んだか。

答 支出の適正化については、全ての事業について事業精査、優先順位を検討し、ゼロベースでの見直しを行い適正化に取り組んでいる。長期的な財源確保策としては、税収の確保が第一で、企業立地のみならず地場産業を育成・支援することは、地域経済の発展や市民の雇用環境の充実につながり、個人分の税収にも好影響があると捉えている。

問 新たな観光資源として開発した伊良湖温泉を、伊良湖地区や市全体に生かすためのビジョンは。

答 温泉資源を起爆剤として、豊かな自然や食、アクティビティなどの地域資源を結びつけたウェルネスツーリズム(※1)に取り組むなど渥美半島全体の活性化につなげていく。

問 M a a S(※2)の積極的な活用やC A S E(※3)の社会実験の支援で、新たな公共交通の確立が必要になると思うが、どう考えるか。

答 様々な交通手段を使って、より効率的・経済的に

移動を実現するM a a Sについては、令和3年度にコミュニティバスのバス停の位置や時刻表をオープンデータとして整備し、第一歩を踏み出した。また、C A S Eについては、今後の社会動向を注視していきたいと考えている。

問 たはらゼロカーボンシティでの自動車の電動化への対応について、どのように考えるか。

答 自動車から排出される温室効果ガスを削減するため、電気自動車や水素を燃料とする燃料電池自動車等の自動車の普及を促進していく。自動車の普及に伴い、充電器等のインフラ設備も、事業者と協力しながら普及を促進していく。

※1 ウェルネスツーリズム
自然豊かな地域を訪れ、自然や温泉、料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復、増進、保持する新しい観光形態

※2 M a a S
公共交通等の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス

※3 C A S E
自動車の次世代のあるべき姿を表した、コネクティッド(C)、自動運転(A)、シェアリング(S)、電動化(E)の頭文字を取った造語

代表質問 P 12 自由民主党田原市議団 大竹正章 令和4年度施政方針について

P 13 市民クラブ 平松昭徳 令和4年度施政方針について

個人質問 P 14 辻 史子 帯状疱疹ワクチンについて
がん患者のアピランスケア支援について
保育施設・小中学校手洗い場の自動水栓化について
デジタル弱者への取り組みについて



P 14 村上 誠 地域コミュニティによるまちづくりについて

P 15 岡本 禎稔 地域ブランド力の向上とシティセールスの推進について

P 16 内藤 浩 医療的ケア児に対する支援について

P 16 廣中 清介 「華山劇」と「ふるさと教育」について

P 17 小川 貴夫 市内の高等学校との協力体制について
小中学校の部活動について

P 18 内藤喜久枝 たはら農業プランについて

P 19 岡本 重明 まちづくりについて